

小国六年	登場人物の相互関係や心情、場面について	組	名
補充	描写をとらえよう。	番	氏

次の文章は、いちようの木であるおっかさんから、子どもたち（いちようの実）が旅立つ場面です。文章を読んで後の問いに答えましょう。

星がすっかりきえました。東の空は白くもえているようです。木がにわかにはざわざわしました。もう出発に間もないのです。

「ぼく、くつが小さいや。めんどくさい。はだしでいこう。」

「そんならぼくのとかえよう。ぼくのはすこし大きいんだよ。」

「かえよう。あ、ちようどいいぜ。ありがとう。」

「①わたしこまってしまおう、おっかさんにもらった新しい外套がいてうが見えないんですもの。」

「はやくおさがしなさいよ。どのえだにおいたの。」

「わすれてしまったわ。」

「こまったわね。これからひじょうに寒いんでしょう。どうしても見つけないといけなくってよ。」

「そら、ね。いいばんだらう。ほしぶどうがちよっと顔をだしてるだらう。はやくかばんへ入れたまえ。②

もうお日さまがおでましになるよ。」

「ありがとう。じゃもうよ。ありがとう。いつしよにいこうね。」

「こまったわ、わたし、どうしてもないわ。ほんとうにわたしどうしましよう。」

「わたしとふたりでいきましようよ。わたしのときどきかしてあげるわ。ここえたらいつしよに死にましようよ。」

東の空が白くもえ、ユラリユラリとゆれはじめました。おっかさんの木はまるで死んだようになってじつと立っています。

とつぜん光のたばが黄金きんの矢のように一度にとんできました。子どもたちはまるでとびあがるくらいかはやきました。

北から氷のようにつめたいすきとおった風がゴーツとふいてきました。

「さよなら、おっかさん。」「さよなら、おっかさん。」③子どもらはみんな一度に雨のようにえだからとびおりました。

（宮沢賢治「いちようの実」一部抜粋）

問一 この場面の時間帯はいつですか。次から一つ選んで記号で書きましょう。

- ア 深夜 イ 早朝 ウ 真昼 エ 夕方

() ()

問二 ①——線部「わたしこまって〜」でも

の。」とありますが、これを話したいちようの実際の女の子のほかの会話を二つ探し、それぞれ最初の七文字（かぎかっこもふくむ）を書きましよう。

問三 ②——線部「もうお日さまがおでまし

になるよ。」とありますが、太陽がのぼり、姿が見えたことが本文からわかります。その一文を抜き出し、最初の五文字を書きましよう。

問四 冒頭で「もう出発に間もないのです。」とあり

ますが、③——線部で「出発」という言葉を使わずに「とびおりました」と表現することによってどのような違いがありますか。

[]